

令和6年度 総合的な学習の時間 学習指導研究委員会のまとめ

一 テーマ

問いや願いの解決に向けて、地域の人・もの・ことに自ら関わり、
自己の生き方につながる総合的な学習の時間

二 テーマ設定の理由

学習指導要領には、「何を理解しているか、何ができるか」という『知識及び能力』の観点、「理解していること・できることをどう使うか」という『思考力・判断力・表現力等』の観点、「どのように社会・世界と関わりよりよい人生を送るか」という『学びに向かう力、人間性等』の観点の三つの柱がある。子どもたちの「願い」の実現に向けた学習を展開し、地域の「ひと・もの・こと」に自ら関わることで、上記の資質・能力を育成していくことができるよう、本テーマを設定した。とくに、今年度は、子どもたちと地域素材とのかかわり方と、それを支える教師の支援について考えていくことにした。

三 研究の経過

本年度は、塩田西小学校の授業と教育課程研究協議会の午後の研修を通して、研究テーマにもかかわる地域素材のかかわり方について、授業研究会の中で語られる子どもたちの学びの姿や、午後の研修での委員による実践発表や先生方の情報交換の中から考えていった。また、委員会の中でも、各委員の総合的な学習の時間の実践の様子を情報交換し、活動の立ち上げや地域素材との結びつきなど、先生方の思いや悩みを共有し、学び合う時間とした。

回	月日	内容（会場）
1	5月 2日（木）	総委員会（会館）
2	6月 14日（金）	事前授業研究会・教育課程研究協議②について（塩田西小）
3	7月 29日（月）	実践報告①・教育課程研究協議②について（塩田西小） ※実践報告：東小・北小・塩田中
4	9月 4日（水）	教育課程研究協議会（塩田西小）
5	10月 25日（金）	実践報告②・教育課程研究協議②反省（東小／オンライン併用） ※実践報告：本原小・中塩田小・川西小・丸子中
6	11月 25日（月）	総委員会（会館）
7	1月 6日（月）	各校の実践報告提出締切（メールにて）

四 研究の内容

1 塩田西小学校3年生の実践（教育課程研究協議会）

- （1）単元名 「行ってみよう！わたしたちのまち 塩田」
（小単元名「伝えよう！わたしたちのまち 塩田」）

（2）単元に関わる子どもの姿

本学級の児童は、第1・2学年の地域遠足の学習において、地域の様々な場所や自然とかかわる体験をしている。そのため地域の寺や神社などについてすでに知っているものもあった。また、実際に公園や、神社の境内で遊んだり、家族と訪れたりしたことがある児童も多くいる。しかし、そのよさや特色

などについて気づいている児童は少なかった。

本単元では、ボランティアガイドさんに教えてもらった塩田のよさを、それを知らないたくさんの人に伝えることを通して、相手に分かりやすく伝える方法を学んでほしいと願っている。本学級の児童は各教科を通じて、対話的な活動しながら意見を交流する経験を積んできている。そのため自分の考えを伝えられる児童が多い反面、相手に伝わるように内容をまとめる力は高くないように感じる。総合的な学習の時間だけでなく、他教科でも生きるようなまとめの仕方を学び、伝える相手への意識をもった活動ができるようになってほしいと願っている。

4月、国語で「春風をたどって」という物語文の学習をした。自分の住んでいる場所のよさに気づいていない主人公に、顔見知りの友だちが、近くにある美しい花畑を教えてくれた。それを知った主人公は、「もっとたくさんすてきな場所があるかもしれない」と、宝物を探すかのようにわくわくしながら地域のよさを探し始めた。この物語文と出逢った子どもたちは、「自分たちが住んでいる塩田の地域にも宝物はあるのかな」と考え、地域探検が始まった。

始めは5・6月に、担任主導でボランティアガイドさんと一緒に地域探検に行った。地域の神社やお寺などの宝を巡りながら、野倉方面、別所方面と2回に分けてまわった。「野倉にはこんなにたくさん宝物があったんだ。」と、普段近くで生活していても知らなかった地域の宝物に出会えたり、「見たことはあったけど、詳しく聞いたのは初めてだった。」など塩田地域の宝物について関心が芽生えてきたりした。



その後、「まだ行ってない地域にも行ってみたい!」と、今までになかった3回目の地域探検の計画を自分たちで立てた。校長先生にお願いに行くグループ、別所線にお願いの電話をするグループ、ワークシートを作るグループなど、子どもたちの「やりたい!」という思いを大切にしながらグルーピングで、8つのグループに分かれて準備を進めた。「丁寧な言葉でお願いをするために事務の先生に聞きに行こう!」と、メモ用紙を持って事務室を訪ねるグループや、「1・2回目の時のものを見ながら作ろう!」と今までのワークシートやおたよりを参考にしながらグループごとに必要なものを考えて準備を進めた。そして7月、実際に自分たちの計画した十人・八木沢方面の地域探検に行った。自分たちで計画した地域探検に行った子どもたちからは、「塩田っていいところだな。」「こんなにたくさん宝物がある塩田ってすごい!」といった感想がでた。4回目は暑い時期と重なり、実際に足を運ぶことはできなかったが、まだ見ていない地区の地域の宝も知りたいという思いが子どもたちにあったので、ボランティアガイドさんを教室にお呼びして、画像を見ながらバーチャルの地域探検を行った。

地域探検の最後に、ガイドさんが「塩田にはたくさん宝物があります。みなさんにはその地域の宝を守ってほしいと思っています。」と話された。このガイドさんの思いを受け、自分たちにできることは何かを考え、「たくさんの人に塩田の宝物を伝えよう」と子どもたちは考えた。本単元は、たくさんの人に塩田のよさを伝えるための方法を考え、相手に伝わるものを制作し、発表することを通して、よさを伝えることができることを期待するとともに、相手に伝わるまとめができるようになってほしいと願っている。

(3) 小単元の目標

4回の地域探検に行き、「塩田の宝物を守ってほしい」というボランティアガイドさんの言葉から自分たちに何ができるのか考えた子どもたちが、たくさんの人に塩田のよさを伝えるための方法を考え、相手に伝わるものを制作し、発表することを通してよさを伝えることができる。

(4) 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・地域のよさや地域に住む人々の思いを理解することができる。	・他教科等で培った表現力等を生かし、相手に伝わるようにまとめることができる。	・身近な人と力を合わせて課題を解決しようとする。

(5) 単元の概要

学習活動（時間）と子どもたちの意識	支援
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> クラス全体の願い「塩田にある宝物を守っていくために、たくさんの人によさを伝えたい！」 </div>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 60%;"> 単元を貫く学習問題 塩田のよさをたくさんの人に伝えよう！ </div>	
1 たくさんの人に塩田のよさを伝えるためには、どのような方法があるか考える。(1時間)	見通しをもつ場面 ・どんな人によさを伝えたいのかも考え、伝えたい相手が楽しめるような方法を考えられるようにする。
2 自分に合っているグループを選び、取り組みたい内容ごとにグルーピングする。(1時間)	・個々の願いが生きるようなグルーピングにする。
3 活動の計画を立てる。(2時間) <ul style="list-style-type: none"> ・個人でやること ・グループでやること ・必要な物 ・時間配分 等 	制作活動の見通しをもつ場面 ・ワークシートを工夫し、スムーズに計画を立てられるようにする。 ・自分のやるべきことがはっきり分かるように、個人活動とグループ活動に分けて計画を立てられるようにする。 ・伝えたい相手はどんなことが知りたいかを想像できるように声をかける。
4 グループごと制作を進める。(5時間/本時)	グループや個で活動を進める場面 ・常に自分たちの願いに立ち返り、願いに沿ったものになっているか確認する。
5 作ったものを、伝えたい人に発表する。(2時間)	自己の学びを自覚する場面 ・自分たちが地域探検で学んできたことがたくさんの人に伝わったことを意識できるような声かけをする。

(6) 本時案

R 6年度 塩田西スタイル授業づくり構想シート 上田市立塩田西小学校

[教科] 総合(3年)	[単元名・題材名] 伝えよう!わたしたちのまち 塩田(6/11)
-------------	----------------------------------

【本時のねらい】

地域探検で、塩田には貴重な文化財がたくさんあることを知り、それらをたくさんの人たちに伝えたいという願いをもった子どもたちが、取り組みたい内容ごとにグループに分かれて活動の計画を立て、制作を進めることができる。

☆ねらいが達成されたと思われる子どもの姿や発言・記述

グループごと自分たちのやるべきことの見通しを立て、活動を進めることができた。

<信州型UDの視点>

[窓口] 安心して参加できる授業の工夫	[着眼点]・活動に取り組みやすい配慮
[課題把握のための工夫] 制作に必要な準備について共通理解を図り、見通しをもって取り組むことができるようにする	

※入れたい場所に【学習問題】【学習課題】を設定し、記入する。

はじめ (3分)	1 前時の振り返りやグループ分けの確認を行い、本時の学習問題を確認する。
	【学習問題】 塩田のよさをたくさんの人に伝えよう!
	【グループの例】 ・マップ ・クイズ ・かるた ・すごろく ・紙芝居



なか (40分)	【追究の流れ(学習活動)】個人・グループ・全体→めりはりを意識
	【学習課題】 塩田のたから物を伝えるために、グループごとに活動を進めよう。
	2 個人で行う活動と、グループで行う活動を確認する。
	3 各教室でグループごと準備を進める。 ・探検で学んだことを参考にしたり、必要に応じて資料を使って調べたりする。 ・調べたことを基に制作を進める。
	4 今回やったことや次回やることをグループごと発表して、全体で共有する。



おわり (5分)	【まとめ・ふりかえり】
	5 本時の学習を振り返り、次時の活動の見通しをもつ。

UD化3観点
【具体的・視覚的・肯定的】

- ・取り組みたい内容ごとにグルーピングをし、個々の願いが生きるように配慮する。(肯定的)
- ・ワークシートを工夫し活動を明確にして、課題に取り組みやすくする。(具体的・視覚的)



討議の柱1

- ・対象に繰り返しかかわれるように単元展開を工夫したことは、子どもの思いを醸成させ、子どもたちが主体となり自ら願いをもって生き生きと動き出す姿につながったか。

討議の柱 2

- ・取り組みたい内容ごとにグルーピングして活動を行ったことは、個々の願いを生かし安心して参加できる授業の工夫につながったか。

(5) 授業研究会で出された主な意見

① 討議の柱Ⅰについて

- ・本時の活動内容が明確だったので、見通しがもてたグループは、生き生きと活動することができていたのではないか。
 - ・クイズに参考になることを調べている間に新たな問いをたて探究する姿が見られた。
 - ・個々が黙々と活動をしていて、地域を思う気持ちの強さが感じられた。
 - ・写真を丁寧に切る姿や、伝えたい相手に合わせた表現の仕方について考える姿から、強い願いを感じた。
- 自分たちでこれまでも主体的に活動に取り組んできたからこそ、迷いなく活動することができたのではないか。写真や「探検ファイル」を繰り返し見返しながら、活動に取り組んでいたことから、これまでの積み重ねが生きていることがわかった。
- ◇「誰に」「どのように」伝えるのかを具体的にすれば、自ら願いを持ちもっと動けたのではないか、しかし「あいまい」「伝えたい相手がそれぞれ違う」ことの良さもある。

② 討議の柱Ⅱについて

- ・自分の表現方法が認められると安心して活動に取り組む姿が見られた。
 - ・同じ作業をしている友だちがいたことで、どのように表現したらいいか参考にすることができていた。
 - ・役割分担ができていて、黙々と手を止めずにやり通している姿が見られた。
 - ・困っている友だちに寄り添い、例を示したりしながら関わる姿から、同じ課題で小グループ別にしたことは有効だったと思われる。
 - ・同じグループの中でも伝えたい相手や伝える方法が違っていると、ヘルプの出し方が難しく、関わり合えないことで、活動が停滞する姿が見られた。
- ➡ 同じグループや他グループとも関わることができる場の工夫が必要ではないか。

(6) 研究の成果と課題

研究の中で子どもたちのやってみたい気持ちと主体性を大事に考えてきたが、自分たちで計画したり、何度も足を運んだりしたことで、子どもたちが楽しいと感じながら活動に取り組む姿が見られるようになったことが成果であった。地域の特色や人材のよさを生かしながら、また地域との深いかわりを大事にしつつ、対象に繰り返しかわりよさを感じることで、子どもたちの主体性を引き出していく方向性が見えてきた。

この研究をきっかけに、授業学年だけでなく、全校の学級でも地域とのつながりを大事にしつつ、子どもたちの主体性を大事にした総合的な学習の時間の活動が広がるように研究を共有して今後を生かしていきたい。

2 委員の各校の実践

学校・学年・活動名	活動内容	成果と課題
<p>中塩田小・4年 受け継がれる保野祇園祭と人々の願い</p>  	<p>○保野祇園祭の由来や歴史、関わる人々の努力や願いについて調べる学習を通して、保存・継承のために自分たちにできることを考える活動。</p> <p>①保野祇園祭の練習動画を見たり、本番を見学したりすることで、保野祇園祭の存在を知り、知りたいことや疑問をもった。</p> <p>②保野祇園祭の由来や歴史、込められた思いなどを保存会の方にインタビューした。また、道具にも触れさせてもらった。</p> <p>③1回目のインタビューを通して「大変な思いをしてまでなぜ保野祇園祭を続けるのか」という疑問が生まれ、2回目のインタビューをした。</p> <p>④保存会の方々や保野地区の方の願いをもとに、保野祇園祭を続けていくための作戦を考え、提案した。</p>	<p>○実物に触れたり、人と関わったりすることを通して、子どもたちが自分事として活動に取り組むことができた。「伝統を守る」ことはとても大変だが、その分やりがいもあると知り、これからも守り続けたいという気持ちを持つことができた。</p> <p>△保存会の方を中心にインタビューをしてきたが、他の保野地区の人の意見を聞くことでより考えを深めることができたと思う。</p>
<p>東小・5年 押出川応援クラブ</p>    	<p>○押出川にかかわることを通して知った魅力を、校内や地域に発信していこうとした活動。</p> <p>①春に咲くハナモモや夏に飛ぶホタルを見学したり、川で生き物を探したり水遊びをしたりすることで、押出川とかかわりながら、押出川の魅力（水がきれい・生き物がたくさん・ホタルが飛ぶなど）を発見していった。</p> <p>②発見した魅力を知らせたいという願いをもち、「押出川いきもの館」の開催を計画。川の魅力や生き物、川の環境を守る取り組みについてポスターやクイズにまとめたり、川で捕まえた生き物を水槽ごと展示したりすることにした。</p> <p>③PTA祭りに合わせて校内で1回目を実施し、当日の様子や来館者アンケートをもとにふり返り、2回目を計画。2回目は広く地域に知らせるために、中央公民館ロビーで10日間ほど実施。中央公民館関係者と連携しながら準備し、公民館利用者など多くの方に来場していただいた。</p>	<p>○クラス替えをまたいでの昨年度からの活動だったが、経験の有無にかかわらず、押出川にすすんでかかわり、発信しようとする願いをもち、活動する姿がみられた。発信の方法として、中央公民館の活用が効果的だった。</p> <p>△「いきもの館」の活動は意欲的だったが、川とかかわる機会をもっと早期からもちたかった。とことん遊んだり、調べたりする機会が1学期からもてれば、押出川への思いや発信の内容がもっと深まったと思う。</p>

本原小・5年
田米五米(たまごま
い)を育てよう！



○地域の方ともち米を育て、米作りの一年間を発信したり、もち米を販売したりする活動。活動をしていく中で、4年生から飼っているにわとりとコラボしたメニューを考えたいと派生していつている。

①春から代かき、田植え、観察、稲刈り、脱穀を体験したり、地域の方の米作りへの思いを聞いたりして、米作りの一年を五感で学びながら、楽しさや大変さについて気づいていった。(手をかけた分大きくなる・毎日の水の管理がある・タイミングが大切など)

②収穫したもち米をより多くの人に食べてもらいたいという願いを持ち、販売を計画。7つのグループに分かれ、袋詰めをしたり、パッケージを考えたり、チラシを作ったりして、全校に販売を呼びかけ、自分たちの手で100袋以上を販売した。

③収穫祭の計画にあたり、「もち米を自分たちらしく食べたり、ふるまったりするにはどうしたらいいか」を考え、にわとりとのコラボを検討。同時に自分たちが体験したことを伝えることで自分たちの口に食べ物が届くまでにはたくさんの方がかかわっている、思いが詰まっていることを伝えたいと発表も検討。

【3学期以降の展望】

・卵とのコラボメニューをグループごとに検討→試作をくり返し、2月の収穫祭で地域の方にふるまう。

現在の案：ロールケーキ カステラ など

・米作りで体験したことをポスターや劇などでまとめ、2月の収穫祭で発表する。

○ほとんどの子が初めての体験だったが、意欲的に活動できた。社会科の学習と絡めて自分たちの活動をふり返ることで、米作りの大変さをより感じるようになっていった。

○自分たちで一から食材に出会う活動をコラボさせることで、より食への関心が高まった。手間がかかっていることを、身を持って体験したことで、感謝の気持ちを伝えたいと意欲を持った。

△時期が決まっている活動のため、思うように進められなかったり、一気に進めないといけなかったり、子どもたちのモチベーションを保つことが難しかった。やるべきこと、やりたいことなど整理しながら進めることができるとより意欲的にできたと思う。

北小・6年
中庭改造計画



○中庭を整備し、楽しんでもらえる場にしようという取り組み。

①4月の段階での中庭の状態から、整備する必要があるという思いを持った。そこで、それぞれが感じる課題をあげ、「池」「地面」「畑」「ステージ」の4つのチームに分かれ整備を始めた。

②「池」チームは、落ち葉がたまり、臭い匂いがするというので、水を抜き、落ち葉を池から取り出し、ブラシで洗う作業を行った。「地面」チームは、中途半端に埋まっているレンガを取り出したり、腐った木を使ったりしてオブジェを作った。

「畑」チームは、畑を開墾し、いくつか野菜を植えた。ポップコーンがよく育った。

「ステージ」チームはステージを安定させるために地面を平らにしたり、ステージの足をセメントで固定したりした。

③整備が完了したので、今後は取り出したレンガや切った気を使って、みんなが遊べる場を作ろうとしている。

○中庭の状況を見て、自分たちで課題を見つけ、それに向けて必要な活動を行うことができた。

△2学期に入り、総合の時間がなかなか取りにくくなったため、活動への思いが薄れてしまった。課題を挙げられたところまでは良かったが、解決方法をもっと探究的に考えられる仕組みを作ればよかった。

川西小・6年
活用しよう！私たちの生活と“火”



○火をおこすことから始まり、おきた火を活用しながら料理作りや異学年交流をした活動。

①舞い切り式で火おこしに初挑戦をしたが、白煙は出るものの着火にはいたらず。「やる前は、すぐに火をつけることができると思っていたけれど、いざやってみると、かなり難しかったです。」と振り返った。

②何度も挑戦するも着火できず。そこで、ともしび博物館に行き、火おこしの方法を教えていただいた。「力の入れ方と、速く腕を(手)を動かすことが大切だと思いました。また、学校のとの違いは、素材が空木でした。」見事に着火し、このような考察し、学校での実践に臨んだ。

③火おこしの成功を経て、おきた火を使ってバームクーヘン作りに挑戦。2年生との異学年交流にも発展し、火の活用を目指した。「“おき”になってからバームクーヘンを焼きました。なるべく火の近くにして、焦げ目がつくようにしました。」火を使いこなすことができた。

○ひとつの活動を繰り返すことで、計画→実践→振り返り→解決策→計画・・・と、子ども達の主導で活動が展開された。

○失敗の経験が、次の活動への糧となった。また、友達同士との関わりにも広がり、個人から集団の活動に変わった。

△火おこしから、火を活用した料理作りへと気持ちが移り変わるタイミングを捉えきれなかった。子ども達が本当に興味のあること、やりたいことを見定める難しさを感じた。

丸子中・2年
職場体験学習



○職場体験学習を通して、地域との関りや働くことの意義、役割を考えていく。そして、学んだことをスライドにまとめ発表する活動。

①働くとは何か、どんな職業があるのか、将来どんな職業に就きたいかなどを学習し、働くということに関心を持った。

②協力してくださる職場から体験したい職業を選び、グループに分かれた。そして、職場の方と日程の打ち合わせをし、実際に職場体験学習を実施した。




③職場体験学習で学んだことや感じたことを職場体験新聞に手書きでまとめ、文化祭で掲示した。

④最後のまとめとして、全校で総合の発表会を行った。職場ごとに分かれ、クロームブックで Google スライドを使用し、発表資料を作成した。

⑤発表会場を8か所に分け、1グループ約7分間の総合発表会を実施した。参観日に実施し、生徒だけでなく、保護者の方にも参観していただいた。

○職場体験学習を実施したことで、職業について興味を持つ生徒が増え、3年生の進路学習に向けて良いイメージが持てた。また、「働く」ということに関心を持つことができた。発表会を実施し、参観者に分かりやすく伝えるため、スライドを工夫することや発表の態度などを意識する姿が見られた。

△職場体験学習は意欲的だったが、事前の職業調べ学習では、あまり関心がなかったため、職業に興味を持たせられるような取り組みをし、職場体験学習とのつながりをもっと持たせるべきだった。発表会では、インターネットに記載されている内容が多かったため、自分たちで経験したことの強みを中心に、発表内容へ入れるべきだった。

<p>塩田中・3年 『地域のために～今わたしたちにできること～』</p>	<p>○自分たちの住んでいる地域の将来に抱える不安や課題について知り、「今の私たちにできる活動は何か」を出発点に、学年が8講座に分かれ、生徒たちが考えた地域貢献活動を行った。</p>	<p>○生徒たち自身が考えた活動を少人数の講座別に半年間という長期間活動できたことで、課題解決型・生徒主体の活動となった。半年間の活動を終えた生徒の振り返りからは、半年間自分たちが考えた活動をやり遂げた達成感やそれを認め合えた喜びを感じることができた。</p>
<p>別所線講座</p> 	<p>①ガイダンス(4月)…1・2年生の学習を振り返りながら、「地域のために」という3学年の学習テーマをもとに、地域が将来に抱く課題や不安、これまでお世話になってきたお家の方や地域の方のために今何ができるかを考えた。</p>	
<p>和太鼓講座</p> 	<p>②講座別学習(5～10月)…ガイダンスをもとに分かれた講座で活動を行った。7月には1日活動する日をつくり、校外にでて活動をしたり、外部の講師をお呼びしたりして学習した。</p>	<p>△来年度以降、今年度の活動をただなぞるだけになると、学びの質的な高まりが望めないため、地域貢献学習で身につける資質・能力を明確化すること、そして行う活動も前年度よりも進化・累積させる意識を教員側がもつ必要がある。</p>
<p>防災講座</p> 	<p>③学習発表会(11月)…学年や貢献活動でお世話になった方等を招いて、講座ごとに活動の成果を発表した。</p>	

3 教育課程研究協議会(午後の部)での取り組み

(1) 概要

本委員会の研究テーマや、塩田西小学校3年生の実践と関連させ、「地域」にかかわる活動に取り組んだ塩田中学校3年生の実践報告や、地域素材に触れる情報交換を行った。

情報交換の前半では、塩田西小学区のガイドマップをもとに、子どもがどの素材に注目しそうか、自分はどの素材に注目するか、どんな展開が考えられるか、小グループで意見交換した。後半では、支会ごとのグループに分かれ、委員が用意した観光マップ等の資料をもとに、子どもがどの素材に注目しそうか、自分はどの素材に注目するか、どんな展開が考えられるか、意見交換した。また、「地域素材を活用してこんな活動をしている・したことがある」「こんなことをしてみたい」「地域にこんな人がいる」といった情報や、「どうすればいいのかな」といった悩みも共有する機会となった。

(2) 実践報告(塩田中学校3年生の取り組み)

上田市立塩田中学校

総合的な学習の時間 ～「地域」を柱に～

前年度までの総合的な学習の流れ

1年生・・・塩田めぐり(校外学習)

2年生・・・職場体験学習

3年生・・・地域貢献活動(ごみ拾い)

課題に感じていた点

「行事ありき」の総合的な学習の時間

中学校3年間における学習の系統性がないこと

「何を学ぶのか」「どんな力をつけるのか」
子ども・教員ともに意識ができていなかったこと

「地域」とは…

【辞書】そこに住む人々の活動や社会関係のまとまり。
人々が生活を営む場所、社会のこと。

よりよい生活に向けて、
人々が自分達で創りだしていく社会

将来「わたしたち」が担っていくもの

系統性を意識するためにテーマを据える

1年生・・・『**地域を学ぶ**』



2年生・・・『**地域で学ぶ**』



3年生・・・『**地域のために**』

『地域貢献活動』

今の私たちにできる
「**地域に貢献できる活動**」

将来、自分や家族、まわりの人が
よりよく暮らせる**地域**に向けて、
「今」できること

塩田まちづくり協議会

地域課題の解決や地域活性化に主体的に取り組むことを目標に、2017年に設立。



「総合的な学習の時間」の柱

地域

塩田中学校の「総合的な学習」の目的

将来、自分や家族、まわりの人が
よりよく暮らせる**地域**に向けて、
課題を見つけ出し、
調べたり考えたりしながら、
問題を解決・行動できる力を養う

3年生の総合的な学習の時間のテーマ

『**地域のために**』
～今わたしたちにできること～

- ・地域のために今のわたしにできることは？
- ・地域の将来のために何をする？

「今」だけじゃない「**将来・ずっとこの先**」も
「よりよく暮らせる**地域**」に向けて…

上田市・塩田が
将来に抱える
問題って何だろう。

塩田地域の将来への課題

- ①「自然災害（地震や洪水など）」への対策
- ②地域の高齢化
- ③歴史・伝統のある文化財・伝統行事の保護
- ④「別所温泉」など 観光客減少・商業の衰退
- ⑤里山の松枯れや希少植物の減少。景観維持。

子どもたちの活動のアイデア	
①「自然災害」への対策	・塩田オリジナル防災パンフレット・グッズをつくって配布 ・ため池の耐震工事のお手伝い
②地域の高齢化	・高齢者施設やお家に訪問してお手伝い
③歴史・伝統のある文化財・伝統行事の保護	・神社やお寺の修繕活動のお手伝い ・地域に伝わる太鼓・お囃子等を習い、魅力を知ったうえでそれを伝える活動をする。
④観光客減少・商業の衰退	・別所温泉に映えスポットをつくる ・塩田観光アプリやインスタグラムを開設、魅力を伝える ・別所線の駅を整美して「日本一待ち時間が楽しい駅」にする。 ・「塩田地域をPRする」CMを作成して、魅力を伝える ・中学生の考える「塩田観光ルート」を作成 ・流行りのリアル謎解きを塩田の町で行い、巡ってもらう
⑤里山の松枯れや希少植物の減少。景観維持。	・里山の整備を手伝う（枯れた松の伐採等） ・ため池を守る、伝える活動 ・塩田自然ツアーを組んで、地域の方と一緒に守る活動 ・たねプロジェクト（植林） ・地域花いっぱいプロジェクト

【観光に関する講座】

- ①CM作成『そうだ塩田へ行こう』
- ②情報発信『塩田観光アプリを作ろう』
- ③塩田中生が推す『別所線に乗ろうキャンペーン』
- ④謎解き×街歩き『塩田謎解きパンフレット』

【防災・文化に関する講座】

- ⑤安心・安全な暮らしに向けて『みんなで防災』
- ⑥魅力発見・文化継承『塩田和太鼓』

【自然・景観に関する講座】

- ⑦明るく魅力的なまちへ『花で塩田を彩ろう』
- ⑧塩田平の水利を継承『ため池を守ろう』

今後の予定

- ・各講座の最終目標に向けての活動
- ・地域の方を招いて各講座の学習発表会
- ・半年の活動を振り返り、「未来の塩田地域」について考える、まとめの活動

(3) 参加された先生方の感想

- ・「地域素材の教材化」をテーマに、皆で楽しくアイデアを出し合う中で、自身の視野も広がりました。情報共有もすることができ、有意義なひとときとなりました。
- ・地域素材を探すことの楽しさを感じました。なかなかゆっくりとはできないのですが、少し時間を割いてみたいと思います。素材の教材化と、その積み上げ（学校として）が大切だと思いました。
- ・塩田中さんの取り組みに、共感と勇気を得ることができました。本校でも総合の在り方を変えようとしています。昨年度までの状況が本当に同じだなと思いました。
- ・地域の素材をいかに教材化していくか、教師の力が問われると感じた。教師の願いと子どもの思いをしっかりと4・5月にとらえなくてはいけないと感じた。
- ・総合だからこそ、地域にふれ、体験することの大切さを感じました。まずは子どもの声から課題を作ることで、できることを一緒に考えていくことが大切だと思いました。
- ・総合的な学習の時間を魅力あるものにしていくためには、教師の感性、見方を向上させ、柔軟な思考を身につけることが必要だと痛感しました。教師も子どもたちもワクワクするような学びができるといいな…と思いました。
- ・前半の部も後半の部もどちらも楽しい学びの時間となりました。同僚と話すことを通して生まれるアイデアは、一人で悩んで考えたものよりも、子どもたちにとって深い学びにつながりやすいものになるのだなあと感じました。
- ・「総合」は教科書もないし大変！と思われがちですが、それでも子どもたちが主体的に学んでいく姿をめぐして何とかしたいという熱意が先生方から伝わってきました。熱意ある話をたくさん聞くことができたのが、一番の収穫でした。

五 研究の成果と課題

身近にある「地域」の素材をどのように活用していくかを中心に、教育課程研究協議会での塩田西小の取り組みや、各委員の実践紹介から学ばせていただいた。

委員会では、各校の実践発表を行い、貴重な学びの場になった。学校のある場所によって、学習の素材となるものが異なり、どのような学習を展開しているのか参考になった。また、委員同士が子どもたちとの学習を進めていく上での悩みなどを相談できる場にもなった。

教育課程研究協議会での授業学級となった塩田西小3年生は、願いを共にするグループで協力しながら、地域巡りで見つけた「地域の宝」を紹介するための準備に取り組んだ。また、午後の研究協議では、塩田中の新たな総合の取り組みの紹介や、支会のグループごとに地域素材についての情報交換を行った。ご参会の先生方からは好評で、地域素材への意識を高めたり、日ごろの実践の悩みを語り合ったりする貴重な機会となった。今後は、地域素材からどのように総合的な学習の追究や学びにつなげていくか、子どもの姿からとらえていくことを大切にしていきたい。

来年度は、教育課程研究協議会での研究授業が行われない予定となっている。そのため、同好会と連携した情報交換・研修・体験活動の場の設定を考えていきたい。伝統工芸などの体験、地域の史跡をめぐるなど、夏休み中などに計画できるかもしれない。また、各学校の実践を広げていく、発信していく場があると、総合で困っている先生の助けになる。今年度の教育課程午後の研究協議で行ったような実践報告や情報交換の場を、同好会と連携して計画していくことで、本委員会の活動の意義が出てくるのではないだろうか。

総合的な学習の時間を進めていくときに大切なことは、まず「やってみる」「行ってみる」こと。子どもとともに教師も総合の学習を楽しんでいきたい。